

第5学年2組 社会科学習指導案

授業日 平成28年9月30日(金) 授業Ⅱ
授業者 附属新潟小学校 指導教諭 大矢 和憲
会場 5年2組教室

1 単元名 「どうする？食料生産とわたしたちの食生活」

2 本単元の価値

本単元は、日本の食料の生産と消費に関する諸問題（以下：日本の食料問題）と生活の事実を関連付けて、一消費者として食料消費にどのようにかかわっていくのか考えを深めることを目指した単元である。本単元では、日本の食料問題の解決に向けて、子どもが自分の生活レベルで考え、問題解決しようとしていくことができるように、子どもの食生活の事実を取り上げ、「理想の献立」について議論させていく。

近年、日本のカロリーベースの食料自給率が39%（世界124位）と、食料自給率の低さが問題になっている。しかし、生産額食料自給率は68%と、日本の食料生産力は決して低いわけではない。食料自給率が低いから生産力を上げればいいと食料生産の問題と考えがちだが、そもそもカロリーベースの食料自給率は国際標準ではなく、自給率自体も消費の変化により数値が変化するものである。

食料自給率低下の根本的な要因は、日本人の食の洋風化により、国内自給率の低い食料の輸入が増え、国内自給率の高い食料の消費が減ったこと。外食産業等が発達し、日本人の食生活が豊かになったこと。さらには、日本の食料廃棄量が年間1900万トンで世界一であることなど、日本人の食料消費に問題があるのである。世界規模で考えれば、日本人の贅沢な食料消費の考え方（食料消費にかかわる考え）を変えていくことが必要なのである。

そこで本単元では、子どもが日本の食料生産と消費の事実を基に、自分たちの食生活を見直していくことができるようにするために、次のように単元を構成する。

まず、地域の農産物直売所について調べたり考えたりすることを通して、身近な食料生産と消費の工夫について学習する。ここで得た知識が、自分たちの食生活を見直す際に発揮される。

次に、日本の食料問題について学習する。子どもは、日本の食料生産と消費の事実、危機感や問題意識を感じる。そのような子どもに、子どもの実態調査の結果を基にした「理想の献立」を提示する。子どもは日本の食料問題の知識を発揮して、自分たちの食生活に問題意識をもち、様々な資質・能力を発揮しながら「理想の献立」について考えていく。また、考えた「理想の献立」について、ワールドカフェ形式で相互評価させていくことで、食料問題にかかわる考えを深めていくことができる。

このように、自分の生活を見直し、改善しようとする態度は、家庭科で育成する資質・能力にもつながる。また、食料自給率を取り上げることや食料消費について考えることは、食育の学習を包含することになる。さらに、ワールドカフェ形式で相互評価させる学習形態をとることで、国語の「話すこと・聞くこと」で育成する資質・能力を発揮させることができる。

この他にも、「コア・マトリクス」(思考ツール)を与え、小グループで「理想の献立」を考えさせることで、協働性やツール活用能力を発揮してグループの提案を考えることができる。

このように学習することで、社会の一員として持続可能な社会の実現に向けて、よりよく課題解決しようとする態度を育むことができる。また、社会科を中心に、国語や家庭科、食育における資質・能力を教科横断的に育成することができる単元である。

3 本単元で目指す姿

日本の食料問題と生活の事実を関連付けて、食料問題にかかわる考えを深める子ども

『理想の献立』を実現するには、できるだけ旬の物を食べたり、地産地消をしたりすればいいけれど、本当に食べたいものを食べるには難しいこともあることが分かりました。でも、日本の食料自給率が低いことや、輸入に頼っていることなどは問題なので、これからはできるだけ国産のものを食べることや食べ残しがないようにすることが大切だと考えました。わたしたち一人一人が普段からもっと食料について考えることが、日本の食料問題を解決することにつながると思いました」などと考える姿。

4 本単元で育成する資質・能力

単元カード参照

5 指導計画 全14時間(42Q) 社会科・家庭科・食育10時間、国語科4時間

単元カード参照

6 指導の構想

子どもは、本単元の導入前に、「自分の好きな献立」と「よく食べる献立」のアンケート調査に答えている。その後本単元の始めに、農産物直売所（JA新潟市きらきらマーケット）の見学調査を通して、「地産地消」の取組とそのメリット、デメリットについて学習している。

その後、日本が食料を外国からたくさん輸入していることや食料自給率が低いこと、フードマイレージや食料廃棄量が世界一であることなど、日本の食料問題について学習し、日本の現状に危機感を感じている。しかし、これらの諸問題の解決に向けて、自分がどのようにかかわるのかまでは考えていない。

また、社会科を始め、総合や国語、道徳の学習などで、学習問題等について、小グループでタブレット端末や「コア・マトリクス」を活用して考えたり、考えを表現したりしている(CO)。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

好きな(よく食べる)献立調査結果を基にした「理想の献立ベスト3」(資料1)を提示し、問題と感ずる理由とこれから考えたいことを問う。

自分たちの食生活の事実に対して、日本の食料問題に関連付けた問いをもたせ、学習問題を設定させるための働き掛けである。

まず、事前に調査した「好きな献立」と「よく食べる献立」のアンケート結果を基に作成した「理想の献立ベスト3(資料1)」を提示する。またこのとき、必要に応じて各献立の食料自給率(料理自給率計算ソフト「クッキング自給率」で算出したデータ)を提示する。日本の食料問題について学習している子どもは、提示された「理想の献立」に対して問題意識をもつ。

ここで、子どもに問題と感ずる理由を問う。

子どもは、日本の食料問題についての知識を発揮し、日本の食料問題を考えると、「理想の献立」は理想と言えないのではないかなどと、日本の食料問題と自分たちの生活の事実を関連付けた問いをもつ。このような子どもに、これからみんなで考えたいことを問う。子どもは「どうすれば理想の献立になるのか、理想の献立について考えよう」などと、学習問題を設定する。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け2

学習問題を解決するためにどのようなことを考えていけばいいのかと、その理由を問う。

学習問題について調べたり考えたりしていくための視点を設定させ、様々な資質・能力を発揮して学習する見直しをもたせるための働き掛けである。

学習問題を解決するために、どのようなことを考えていけばよいのか問う。子どもは、食料自給率が高い献立にすることや、そのために食品の食料自給率を調べる必要があることなど、日本の食料問題の解決に向けて必要なことや、考える必要があること、足りない情報などを挙げる。これらを板書に可視化することで、調べたり考えたりしていくための視点が共有される。

また、このとき、そのように考える理由を問うことで、子どもは学習問題を解決するために、「事象や人々の相互関係に着目する」「原因と結果の関係に着目する」「国民の生活と関連付けて考える」などの社会的な見方・考え方を働かせ、これまでの学習で育成された知識や思考力・判断力・表現力、態度を発揮して調べたり考えたりする見直しをもつ。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け3

「コア・マトリクス」を与え、小グループで提案を考えさせる。

子どもが様々な資質・能力を発揮し、学習問題を解決できるようにするための働き掛けである。

この場面では、子どもがツール活用能力や協働性を発揮して、学習問題についてよりよく思考・判断・表現していくことができるようにしたい。そのために、本単元では「コア・マトリクス」(右図)を与え、小グループで「理想の献立」の提案を考えさせる。「コア・マトリクス」は、必然的に関連付けや総合する思考が促されるツールだからである。

今回は最終的にコア部分にグループの「理想の献立」を書くように指示する。子どもは、「コア・マトリクス」やタブレット端末の活用の仕方を考え(⑤ツール活用能力)、グループで提案する「理想の献立」を考えていく(④協働性)。



その中で、日本の食料問題の解決につながるようにと（③態度）、「事象や人々の相互関係に着目する」「原因と結果の関係に着目する」「国民の生活と関連付けて考える」などの社会的な見方・考え方を働かせながら、日本の食料問題と自分たちの生活の事実に関する①知識・技能を發揮し、食料問題の解決につながる提案をまとめていく（②思考力・判断力・表現力）。また、学習問題が家庭科、食育の要素を含んでいることから、この場面で子どもは、社会科の資質・能力だけでなく、家庭科や食育で育成する資質・能力も發揮する。

働き掛け4
ワールドカフェ形式で、各グループの提案について説明させ、メリットとデメリットを交流させる。※本来の「ワールド・カフェ方式」とは異なる。

具体的・現実的に日本の食料問題へのかかわり方を考えることができるようにするための働き掛けである。

各グループの提案がまとまったところで、提案についての意見交流を行わせる。このとき、次のようなワールドカフェ形式で交流させる。

【ワールドカフェ形式】※本来の「ワールド・カフェ方式」とは異なる。
 ①4人グループのうち、2人は他のグループを回り、提案を聞いたり意見を述べたりする。
 ②残りの2人は、自分のグループの提案を来た人に説明したり、もらった意見を付箋紙に書いたりする。
 ③他のグループを回る時は、提案のメリットとデメリットを指摘させる。
 ④全員が自分のグループの提案をしたり他のグループを回ったりできるように、役割を替えて2回目を行う。

このような形式をとることで、子どもは、国語「話すこと・聞くこと」の資質・能力を發揮して、考えを交流する。またこのとき、別グループの子どもに提案のメリットとデメリットを指摘するように指示する。子どもは、「提案が日本の食料問題の解決につながるのか」、「本当に実現できるのか」などと（③態度）、「事象や人々の相互関係に着目する」「原因と結果の関係に着目する」「国民の生活と関連付けて考える」などの社会的な見方・考え方を働かせながら、食料問題と生活の事実に関する①知識・技能を發揮し、日本の食料問題へのかかわり方を相互評価していく（②思考力・判断力・表現力）。一方で、提案したグループの子どもは、自分たちの提案の有効性や難しさを感じることができる。

働き掛け5
学習を通して分かったこと・考えたこと・思ったことと、「考え方のコツ」を問う。

社会の一員として、これから自分が日本の食料問題にどのようにかかわっていくのか考えることができるようにするため。また、發揮した資質・能力を自覚させるための働き掛けである。

これまでグループで学習問題について考えてきた子どもに、学習を通して分かったこと・考えたこと・思ったことを問い、説明させる。子どもは、「事象や人々の相互関係に着目する」「原因と結果の関係に着目する」「国民の生活と関連付けて考える」などの社会的な見方・考え方を働かせながら、日本の食料問題と生活の事実に関する①知識・技能を發揮し、日本の食料の生産と消費に関する情報を再構成しながら（②思考力・判断力・表現力）、日本の食料問題の解決に向けて、これから自分が食料問題にどのようにかかわっていくのか考える（態度）。こうして日本の食料問題と生活の事実を関連付け、食料問題にかかわる考えを深める子ども（Cn）になる。

また、このとき「考え方のコツ」を同時に問い、説明させることで、子どもは学習を振り返り、自分が發揮した資質・能力とその結果どのようにできたのかを自覚する。

7 本時の構想（本時 8/14時間）

(1) ねらい

自分たちの食生活の事実に対して、日本の食料問題を関連付けた問いをもち、様々な資質・能力を發揮して学習する見通しをもつことができる。

(2) 主張（展開）3Q（45分）

このような子どもに（C0）

- 「自分の好きな献立」と「よく食べる献立」のアンケート調査に答えている。
- 「地産地消」の取組とそのメリット、デメリットについて学習している。
- 日本が食料を外国からたくさん輸入していることや食料自給率が低いこと、食料廃棄量が世界一であることなど、日本の食料の生産と消費に関する諸問題について学習している。
- 食料問題の解決に向けて、自分がどのようにかかわることができるかまでは考えていない。
- 社会科を始め、総合や国語、道徳の学習などで、学習問題等について、小グループでタブレット端末や「コア・マトリクス」を活用して考えたり、考えを表現したりしている。

- 1学期に「日本型食事」について学習している。
- 家庭科の学習で、「五大栄養素」について学習している。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 「理想の献立ベスト3」（資料1）を提示し、問題と感ずる理由とこれから考えたいことを問う。
- ・説明「みんなの好きな献立、よく食べる献立アンケートの結果を集計した、『みんなの理想の献立』ベスト3を発表します」
 ※「理想の献立ベスト3」（資料1）をプレゼンテーションで順番に提示する。
 ※必要に応じて各献立の食料自給率（料理自給率計算ソフト「クッキング自給率」で算出したデータ）を提示する。
- ・説明「これらがみんなにとって『理想の献立』なんですね」
- ・発問「みんなは、なぜこれが問題だと感じたのですか。発表しましょう」
- ・発問「これからみんなで考えたいことはどんなことですか」
- ・説明「これからみんなで考えていくことはこれでいいですか。それではみんなの学習問題にしましょう」
- ・指示「これからワークシートを配るので、問題だと感じた理由と、今の自分の考えをワークシートに書きましょう」
 ※問題だと感じた理由と、初発の考えをワークシートに記述できた子どもを問いをもった姿とする。

このようになり（C1）

- 食生活の事実に対して日本の食料問題を関連付けた問いをもち、学習問題を設定する。
 - ・どんな献立が人気だったのかな。 ・やっぱりおいしそうだな。食べたいな。
 - ・それぞれの献立の食料自給率はどうなっているのかな。
 - ・えーっ！？食料自給率はこんなに低いのか？これは問題だよ。
 - ・日本の食料問題から考えると、これが「理想の献立」とは言えないんじゃないかな。
 - ・これでは日本の食料問題を解決できないから問題だ。改善しなければいけない。
 - ◎ どうすれば「理想の献立」になるのか、「理想の献立」について考えたいです（学習問題）。
 - ・この献立では、日本の食料問題を解決できないから問題だと思う。だから、食料自給率の高い食材を使った献立にするとういと思う。
- ☆社会科・家庭科・食育：①知識・技能、③態度の發揮

このように働き掛けると【働き掛け2】

- 学習問題を解決するためにどのようなことを考えていけばいいのかと、その理由を問う。
- ・説明「みんなは『理想の献立』について考えていきたいのですね」
- ・発問「では、『理想の献立』にするために、どのようなことを考えていけばいいですか」「それはなぜですか」「では、そのためにどうしたらいいと考えますか」
 ※考えをできるだけ具体的に話させ、「考える視点」「その理由」「必要な情報」「学習方法」の4つに分類して板書する。

このようになり（C2）

- 学習問題について調べたり考えたりしていくための視点を設定し、様々な資質・能力を發揮して学習する見通しをもつ。
 - ・食料自給率を高くすることを考えなければいけないと思う。そうでないと、いつまでも日本の食料問題は解決できないから。
 - ・旬のものとか、地元でとれる野菜とか、できるだけ外国産ではなくて、国産のものを使った献立を考えればいいのかと思う。そうすれば、自給率を上げることに繋がるから。
 - ・自給率の高い食材を使った献立を考えればいいのかと思う。そうすれば、日本の食料問題を解決することに繋がるから。
 - ・だったら、自給率の高い食材を調べなければいけない。ipadを使って。
 - ・「日本型食事」にすることを考えればいいのかと思う。そうすれば、体にもいいから。
 - ・できるだけ好きな献立になるように考えればいいのかと思う。そうでないと残してしまっ問題になるから。
 - ・一人で考えるよりもグループになって考えた方がいいと思う（④協働性）。
 - ・だったら、「コア・マトリクス」を使うといい。考えをまとめやすいから（⑤ツール活用能力）。
- ☆社会的な見方・考え方：「事象や人々の相互関係に着目する」「原因と結果の関係に着目する」「国民の生活と関連付けて考える」
- ☆社会科・家庭科・食育：①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③態度の發揮

本時ここまで

このように働き掛けると【働き掛け3】

- 「コア・マトリクス」を与え、小グループで提案を考えさせる。
- ・指示「それでは、これからグループの4人で『理想の献立』を考えてみましょう」
- ・説明「今回は、班に一枚『コア・マトリクス』をあげます。最終的にコア部分にグループで提案する『理想の献立』を書きましょう。そのためのマトリクス部分の使い方は、グループで相談して考えましょう」
- ※補助発問「それから、『考える言葉』をたくさん使いましょう」
- ・指示「それでは各グループで活動を始めましょう」
- ※タブレット端末や付箋紙、プロッキーなど、必要とした道具を与える。
- ※補助資料：「食品別食料自給率データ」を必要に応じて与える。
- ※補助手段：食料自給率計算ソフト「クッキング自給率」を必要に応じて使えるようにする（教師用PCにダウンロード）。
- ※補足説明：「比べたりつなげたりしたときは、矢印を書いていきましょう。また、矢印の意味を『考える言葉』で書きましょう」
- ※補助発問：机間巡視をして、「なぜそのように考えたのか」「これらのことから、どのようなことが言えそうか」と問う。

このようになり (C3)

- 様々な資質・能力を発揮して、小グループで提案する「理想の献立」を考える。
- ※この場面では、各グループによって様々な資質・能力が発揮されることが予想される。よって、発揮されることが想定される資質・能力を示す。そして、どのような資質・能力が発揮されているかを子どもの姿から検証することとする。
- ・日本の食料問題を解決しようと、「理想の献立」を考える。
- ・食料自給率、輸入、食生活の変化、食料廃棄等、日本の食料問題に関する知識や、地産地消等、食料自給と消費の取組に関する知識を発揮して、「理想の献立」を考える。
- ・食料自給率データ等の基礎的資料を活用して考える。
- ・食材とそれらを購入することに関する知識や、日本型食事に関する知識を発揮して、「理想の献立」を考える。
- ★社会的な見方・考え方：「事象や人々の相互関係に着目する」「原因と結果の関係に着目する」「国民の生活と関連付けて考える」
- ★社会科・家庭科・食育：①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③態度の発揮
- ・相手の考えを分かるうとして聴いたり、相手の考えを受け入れたりする。助け合い、教え合っ
- て活動を進める（④協働性）。
- ・タブレット端末で必要な情報を調べたり、ロイロノートアプリやコア・マトリクスを活用して考えをまとめたりする（⑤ツール活用能力）。

このように働き掛けると【働き掛け4】

- ワールドカフェ形式で、各グループの「理想の献立」について説明させ、メリットとデメリットを交流させる。
- ・説明「グループで提案する『理想の献立』ができましたね。みんなに提案したいですね」
- ・指示「これから、次のように提案交流会をしましょう」
- 「4人グループのうち、2人は他のグループを回り、提案を聞いたり意見を述べたりします。他のグループの提案のメリットとデメリットを必ず伝えましょう」
- 「残りの2人は、回って来た人に自分のグループの提案を説明したり、もらった意見を付箋紙に書いたりします」
- 「どのグループから回ってもよいです。前半15分と後半15分の2回に分けて、役割を交代してやってみましょう」
- ・指示「それでは、グループで前半と後半の役割分担をしましょう」
- ※各班に桃色（メリット記述用）と水色（デメリット記述用）の付箋紙を配付する。
- ・指示「それでは、前半（後半）を始めます」

このようになり (C4)

- 「理想の献立」を提案したり、メリットとデメリットを指摘したりして意見交流をする。
- ※この場面では、各グループによって様々な資質・能力が発揮されることが予想される。よって、発揮されることが想定される資質・能力を示す。そして、どのような資質・能力が発揮されているかを子どもの姿から検証することとする。
- ・提案された「理想の献立」が、日本の食料問題の解決につながるのかを考える。
- ・食料自給率、輸入、食生活の変化、食料廃棄等、日本の食料問題に関する知識や、地産地消等、食料自給と消費の取組に関する知識を発揮して、「理想の献立」を評価する。

- ・食料自給率データ等の基礎的資料を活用して、メリットやデメリットを考える。
- ・食材とそれらを購入することに関する知識や、日本型食事に関する知識を発揮して、「理想の献立」が本当に実現できるのかを考える。
- ・提案や意見を的確に話したり、相手の考えや意図をつかみながら聞いたりする。

★社会的な見方・考え方：「事象や人々の相互関係に着目する」「原因と結果の関係に着目する」「国民の生活と関連付けて考える」

★国語・社会科・家庭科・食育：①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③態度の発揮

- ・相手の考えを分かるうとして聴いたり、相手の考えを受け入れたりする（④協働性）。
- ・タブレット端末のロイロノートアプリや、コア・マトリクスを活用して考えを伝える（⑤ツール活用能力）。
- ・全部を国産にしようとする、お金が高くなったり、好きな献立にならなかつたりするんじゃないか。
- ・この献立は実現するのが難しそうだ。

このように働き掛けると【働き掛け5】

- 学習を通して分かったこと・考えたこと・思ったことと、「考え方のコツ」を問う。
- ・説明「さあ、これまでみんなで『理想の献立』について考えてきましたね」
- ・発問「これまでの学習を通して、分かったこと・考えたこと・思ったことはどんなことですか」「また、学習でどのような『考え方のコツ』を使いましたか」
- ・指示「考える言葉を使って、ワークシートに書きましょう」

このようになる (Cn)

- 自分自身で日本の食料問題に関する情報を再構成し、これから自分が食料問題にどのようにかかわっていくのか考える。
- ・『理想の献立』を実現するには、できるだけ旬の物を食べたり、地産地消をしたりすればいいけれど、本当に食べたいものを食べるには難しいこともあることが分かりました。でも、日本の食料自給率が低いことや、輸入に頼っていることなどは問題なので、これからはできるだけ国産のものを食べることや食べ残しがないようにすることが大切だと考えました。わたしたち一人一人が普段からもっと食料について考えることが、日本の食料問題を解決することにつながると思います。
- ★社会的な見方・考え方：「事象や人々の相互関係に着目する」「原因と結果の関係に着目する」「国民の生活と関連付けて考える」
- ★社会科・家庭科・食育：①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③態度の発揮

8 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した見方・考え方を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ④ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け5を受けて、_____のように、食料問題に関する情報（食料の生産と消費に関する諸問題や自分たちの生活の事実）を関連付けて、自分が食料問題にどのようにかかわっていくのか記述しているかどうかを、ワークシートの記述から検証する。
- ② 働き掛け3、4、5を受けて、社会的な見方・考え方を働かせているかどうかを、発言や活動の様子、考えを表現しているツールなどから検証する。
- ③ 働き掛け3、4、5を受けて、想定した資質・能力を発揮しているかどうかを、発言や活動の様子、考えを表現しているツールなどから検証する。
- ④ 働き掛け5を受けて、発揮した資質・能力を自覚したかどうかを、ワークシートの「考え方のコツ」の記述から検証する。